

平成 29 年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2017 年 12 月 7 日(木) 13:00~17:00

場 所: 兵庫県立大学 明石看護キャンパス 406 演習室

テーマ: 緩和ケアにおける症状マネジメント Up to date

講演 B: 倦怠感、精神神経症状のコントロール、苦痛緩和のための鎮静
緩和ケアのためのコミュニケーション技術

講 師: 安保 博文先生(国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科部長)

受講者: 14 名

アンケート回収: 14 名 (回収率 100%)

主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布敦子

<概要>

「緩和ケアにおける症状マネジメント Up to date」と題して、安保 博文先生(国家公務員共済組合連合会六甲病院 緩和ケア内科部長)より、講演 A/B として、緩和ケアの症状マネジメントについて二回に分けての講演で、今回の講演 B では、倦怠感、精神神経症状のコントロール、苦痛緩和のための鎮静、緩和ケアのためのコミュニケーション技術についてでした。

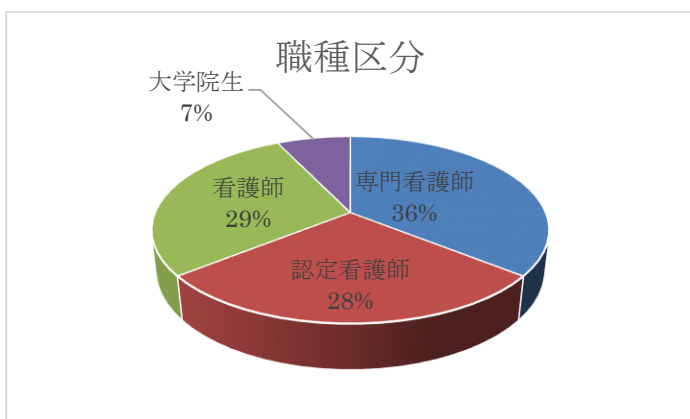
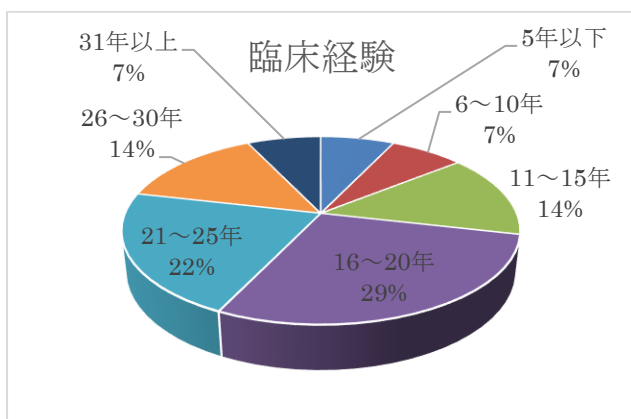
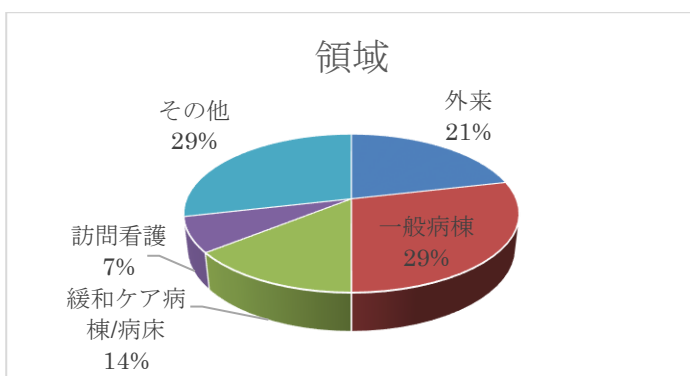
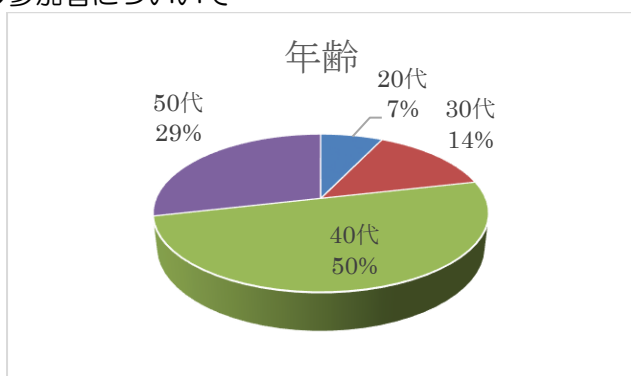
症例や薬剤など専門的なことはもちろん、夜しっかり睡眠をとること、常に患者の気持ちに寄り添うことなど、緩和ケアにおけるの基本となる大切なお話をたくさん伺うことができました。

また、前回に引き続き、がん看護専門の方から在宅・訪問看護など幅広い領域の方からのご参加があり、参加者から提示された困難事例についてのお話も具体的で大変有意義で、今回も参加者全員の方から「非常に役に立つと思う」と感じて頂くことのできたセミナーでした。



<アンケート結果>

●参加者について



●参加者からのコメントより

年齢	領域	職業区分
30代	一般病棟	専門看護師
感想	鎮静について、ガイドライン改定の話が開けてよかったです。現場が困っていることが改定につながっていると感じました。	
課題	教科書どおりに進むことの方が少なく、複雑でイレギュラーな症状など現場でよくあると感じます。なので、このように様々な事例を踏まえての講義がとても勉強になりました。	

年齢	領域	職業区分
40代	緩和ケア病棟/病床	認定看護師
感想	鎮静に至るまでのアセスメントコミュニケーション、本人・家族の意思を伺うことを丁寧に行って生きたいと感じました。	
印象に残った困難事例	<ul style="list-style-type: none"> せん妄の原因検索を丁寧に行うこと、原因の対策を行いつつ、薬剤調整をする コミュニケーション時は、どうするかどう決めるかという事より、Pt、Fa、医療者コミュニケーションがどう深まったかが大切 	

年齢	領域	職業区分
40代	緩和ケア病棟/病床	看護師
感想	痛みの強い終末期のPtには鎮静をした方がPtのためだと勝手に思っていた。PtやFaの気持ちを最優先することを忘れていた自分に気づかされた	
印象に残った困難事例	夜眠る環境を作ることが大事ということ。薬の調整や環境整備の大切さを学んだ	
その他	今日の講和で現場での不安は解消されることができると感じましたが、実際には医療関係者間で意見の隔たりが埋められず、Ptに寄り添った医療を提供できていないと感じることがあります。	

年齢	領域	職業区分
50代	その他	看護師
印象に残った困難事例	意志決定の場面で、患者・家族だけにまかせては深まらない、医療者が間に入り、それぞれの価値観をふまえた上で対応することで家族間の関係が変化してくる…というところが印象に残りました。日頃自分自身が支援している中で家族・患者の代弁者としてかかわっていくことも多いので、「正解はひとつではない、それぞれの価値観」を大切にして今後も頑張りたいと思います。	

年齢	領域	職業区分
40代	その他	専門看護師
感想	実質的な話で参考になった(明日からの臨床にいかせる内容だった)	
印象に残った困難事例	本人→家に帰りたい、家族→ダメ、というような思いが違ふときの対応についてヒントが得られました。	

年齢	領域	職業区分
40代	訪問看護	大学院生
感想	とても勉強になり、現場の実際のお話がたくさん聞けて緩和ケアへの理解が深まった。	

年齢	領域	職業区分
50代	外来	認定看護師
感想	ガイドラインの改訂など新しい話題や薬剤の特性から投与の実際まで患者さんのケアに役立つ内容でした。せん妄は高齢者チームラウンドで助言を頂いても効果がないことがあり、薬剤の使い方は参考になりました。夜眠れることをまず第一のケアにしたいと思います。	
課題	看護師ができる苦痛緩和、予防的ケアの実践	
印象に残った困難事例	ケミカルコーピングのこと。高齢者のせん妄。オピオイドの低用量使用の事例。吃逆の食用酢は効果ありました。	

年齢	領域	職業区分
50代	外来	認定看護師
感想	主人公は患者さんであることを忘れない。症状コントロールを行う上で、医療者がしたいのか、患者さんがして欲しいと思っているか、「誰が」主語を常に考える。	
印象に残った困難事例	目標設定を「良眠」に焦点をあてること。目の前の症状コントロールばかり考えてしまいがちだけどその指標を「睡眠」におくこと	
その他	多職種連携、特に Dr と連携できるために共有できる知識を得ることとコミュニケーションスキルが重要。いつまでたってもコミュニケーションスキルは関係作りの上でも課題です。	

年齢	領域	職業区分
20代	一般病棟	看護師
感想	自分の考え方、見方を変える場面も必要ということを改めて感じました。治療(抗がん剤)から緩和ケアを主体にかえる時、患者さんの思いを考えた説明の仕方などとても参考になりました。	

年齢	領域	職業区分
30代	一般病棟	看護師
感想	その人の年齢、仕事内容、役割を考え、支援方法、治療方法を共に考えていきたいと思いました。せん妄や睡眠についても内服薬の選択にとどまらず、まず本人と話すことから介入したいと思います。	
印象に残った困難事例	ケミカルコーピングを改めて考えるきっかけになりました。	

年齢	領域	職業区分
40代	その他	専門看護師
感想	鎮静にいたるまでのプロセスで行われたケア、コミュニケーションの質の深さが結果だけでなく重要であるということで、鎮静にするか否かにとらわれがちだったことに気付いてよかったです。	

年齢	領域	職業区分
40代	その他	専門看護師
感想	良かれと思って、症状改善のために考えた治療でせん妄や鎮痛過敏など、新しい症状出現をおこしているのかもしれないということを常に振り返る。原因となっている痛態/薬剤/環境要因など考えていきたい。またアセスメントなく継続的にステロイド NSAIDs を使い続けることはやめる/オピオイドも減量を考えるようにしたい。	
印象に残った困難事例	薬のメリット・デメリットについて、メリットばかり期待して使っていることや身体状態が変化していることで、薬のデメリットが強く出てきていることも意識しないといけないと、自分のアセスメントや事例介入の傾向に気付いてスーパーバイズを受けているようでした。医療者が何気なく患者さんやご家族を傷つけていることにも気を配っていききたいと思いました。	

年齢	領域	職業区分
40代	外来	専門看護師
感想	せん妄をふくめ、大事なことを再認識できる機会となった。	
課題	若年～高齢者(認知症)の患者さんの意思決定。外来の限られた時間で治療の決定。地域や在宅での症状緩和の支援。	

●今後セミナーで取り上げて欲しいテーマ

- ・事例検討会
- ・具体的な症状に対する看護、治療。
- ・コミュニケーション(意思決定支援)